

学術会議第4部会より

早川 幸男*

7月23, 24日に学術会議第4部会が高エネルギー研究所で開かれました。研究所の見学もあって、日本の基礎科学も金持ちになったなというのが大方の感想でした。議事の方は効率よく量をこなしましたが、深く突込んで議論する時間がなく、多くの宿題が残されました。その中で天文学会の皆様に知って頂きたいことを以下に述べます。

(1) 第14期会員推薦について。第13期会員の推薦方式についてやっかいな議論をした後なのですぐ変更というわけにはいかないでしょうが、それが固定化されないように努力することにしました。例えば会員の定数配分について、第4部は副会長世話担当の研連の多くを推薦母体として抱えています。また推薦母体にならない研連も多く、活動情況から見てもっと会員数がほしいと思います。現に私は4研連に第4部会の様子を報告しているので、もう少し楽にしてほしいと思っています。

なお、会員推薦に関与する「科学者」の定義が問題にされていますが、第4部関係では問題がないという認識です。天文学会のやり方は一つの模範になると思います。

(2) 科学研究費の分科・細目の見直し。これは長年の懸案で一朝一夕には片付きませんが、申請件数350以上の細目は分割追加を申し入れることにしました。天文学分科は細目のない珍しい例ですが、先日の宇宙空間研連で「太陽系科学」という細目をつくってはという話が出ました。天文学に関係することですので、皆様の御意見をうかがいたいと存じます。

(3) 大学院及び若手研究者の養成問題。これは第4部会で最も熱心に取り組んでいる問題で、学術会議全体を先導しています。現状については、大学院が学部の付置でスタッフ、施設等が著しく貧弱、大学院生を徒弟として狭い専門に閉じこめる傾向、研究者層の薄さ、新しい学問の発展に即応しにくい体質、地域内での研究交流、等々多くの批判的意見が出ました。さて現状改善についてどう提案して行くかになると、実現性も考慮しなければならず、迫力のある提案をまとめるには到っておりません。皆様のお智恵を借りたいと存じます。

なお国立大学共同利用機関を基礎とする大学院を設置する検討が進んでいます。研究所によって事情が異なるのでいろいろの問題を抱えています。順次具体化され

る情勢です。天文学においてもこれは自分達の問題になるでしょうから、今から検討を深めて頂きたいと思いません。

(4) 地域の問題。学術会議の地方区はなくなりましたが、会員が各地域の研究者と直接話し合うことは重要なので、地方区会議を重視しようという意見です。

地域研究機関を設置しようという案が検討されていますが、多数案は地域セクショナリズムの方向に進む恐れがあるので、第4部は慎重再検討の少数派に属します。それよりも、日帰り共同研究を促進する、地域的研究機構の案を出そうとしていますので、皆様の地域での実情や要望をお知らせ下さい。

(5) 学会誌の円高対策。天文学会もPASJの売り方に悩んでいます。どの学会も中小輸出産業並に困っています。円高補償を働きかけるために、学会事務センターに各学会から資料を提出することになりました。会員の皆様に会計理事の苦勞を理解して頂くために、この記事を加えました。

今回は天文学会の秋季年会と重って、学術会議総会の折に開かれます。皆様が推して下さった理事長と会員のどちらの責務を果すべきかと悩みましたが、前者には有能な副理事長がいるのに比べて後者には代替がないので、秋季年会は実質的に欠席することに決心しました。土曜日には高知の方々にお礼のために参りますが、大部分の方にお目にかかれぬことをおわび申し上げます。

お知らせ

野辺山宇宙電波観測所特別公開

日時 11月3日(祭日) 10時-17時
場所 長野県南佐久郡南牧村
野辺山宇宙電波観測所
国鉄小梅線、野辺山駅下車、徒歩25分
内容 45m観測棟、干渉計観測棟、大型計算機室等の公開、宇宙電波及び太陽電波観測所の最近の観測成果を中心とした展示、質問コーナー、講演:「日本の電波天文研究小史」赤羽賢司、「星の誕生をさぐる」長谷川哲夫
問合せ先 野辺山宇宙電波観測所
電話 0267-98-2831

※ 当日、上履(スリッパ等)をご持参下さい。

* 名大理 Sachio Hayakawa